どう守る？車内の子ども
取付け編

あなたのチャイルドシート 取付け方は 大丈夫ですか？

もしもの衝突事故で子どもを守ってくれるのは、しっかりと車に取付けられたチャイルドシートなのです。

しっかり取付けてひと安心？ いえ、さらに 確認しておきたいことがあります

チャイルドシートを正しく取付けることが、子どもの安全を確保する第一歩です。

しかし、それですべてではありません。チャイルドシートを取付ける座席や、ハーネスの調整など、保護者として気を配らなければならないことはまだあります。

ハーネスを調整する 買ってきたまま使ってはいけません

乳児用、幼児用のチャイルドシートには、ハーネスという子ども専用のベルトがついており、購入時はたいてい一番低い位置に設定されています。チャイルドシートを車に取付ける前に、必ず子どもの体格に合わせて調整しましょう。

ハーネスの高さは、正しくチャイルドシートに座った子どもの肩の位置に合わせるようにします。長さは子どもを座らせてハーネスを締めた時に、子どもの鎖骨の辺りでハーネスの間に指2本入る程度に締めつけます。

子どもの成長は、とても早いものです。ハーネスの高さや長さが適当かどうか、まめに確認しましょう。

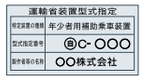
このマークが安全性の証です 技術基準に合格したものを使用する

国土交通省の技術基準を満たしたチャイルドシートには、下図のようなマークがチャイルドシート本体に示されています。

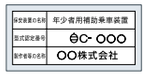
また、米国や欧州の安全基準適合品も、日本の基準を満たしたチャイルドシートと同等とみなされています。

国土交通省の技術基準適合マーク

2002年1月1日〜



98年11月24日〜02年12月31日



〜98年11月23日

欧州ECE規則適合マーク

米国安全基準（FMVSS）適合品の表示例

SRSエアバッグのある助手席は厳禁！ チャイルドシート、どこに取付ける？

SRSエアバッグはあくまで大人の安全を確保するためのもので、チャイルドシートに座っている子どもにとっては危険になることもあります。特に後ろ向きで使用する乳児用チャイルドシートの場合、SRSエアバックの装備された助手席に取付けることは厳禁です。幼児用や学童用のチャイルドシートであっても危険な場合があるので、できるだけ後席に取付けたいものです。

後席の中でも、できる限り前方が広く確保できるような座席を選びましょう。それは、正しくチャイルドシートを取付けていても、前面衝突事故時には子どもの頭は前方に大きく移動することが考えられるからです。

どのクルマにも必ず取付けられるとは限らない クルマとチャイルドシートには相性がある

チャイルドシートの取扱説明書通りにやっているのに、どうしても上手に取付けられない。どこが悪いのだろう?

実は、必ずしも取付け方に問題があるとは限らないのです。シートベルトのバックルや座席の形状によっては、しっかり取付かない場合があるのです。

チャイルドシートメーカーでは、車との相性を調べて「適合表」としてまとめています。もう一度、取付け方を確認した上で、それでもやはり取付けられない場合は、チャイルドシートメーカーに問い合わせてみましょう。

発行/社団法人 日本自動車連盟（JAF）
http://www.jaf.or.jp/

お問い合わせは各事業部まで

本部公益事業部	03-3578-4915	四国本部	087-867-8411
北海道本部	011-857-7155	九州本部	092-841-7670
東北本部	022-783-2850		
関東本部	03-5976-9285		
中部本部	052-872-3613		
関西本部	072-645-1300		
中国本部	082-272-0323		

シャープ ハ イ サン キュウ
#8139
JAFロードサービス救援コール

ⓒJAF MATE社 2003年3月 初版発行

こ　こ　を　確　認

チェックポイントでわかる

チャイルドシートの正しい取付け

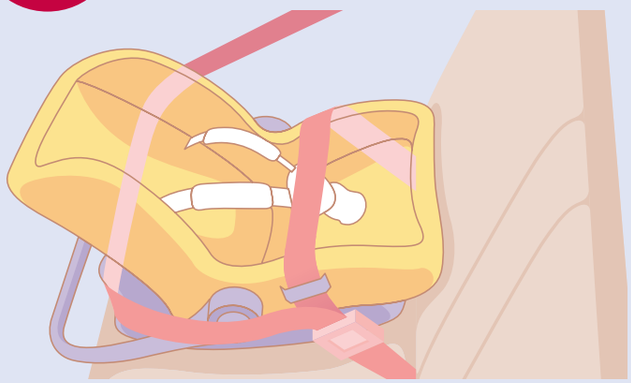
実践！取付けチェック

あなたの車のチャイルドシートは、本当に正しく取付けられていますか？
それを確認するには、実はこんなチェック項目があったのです。

ここでは取付け状態のチェックとポイントを紹介します。
取付け方法については製品ごとに異なることがあるので、
必ずその製品の取扱説明書で確認しましょう。
不明な点はメーカーに問い合わせましょう。

乳児用

後ろ向きに取付けて使用



チェック　CHECK CHECK CHECK

背もたれ角度が45°になっている

チャイルドシートの背が45°より倒れ込んでいないことを確認します。写真のように、正方形の紙を三角に折って背もたれに当てれば45°を確認できます。

押し付けてもシートベルトが緩まない

両腕でチャイルドシートを押し付けた時に、シートベルトが緩まないことを確認します。

ポイント　POINT

角度を調整する

角度調整機能がある場合にはそれを利用し、ない場合には指定のマットなどを敷いて調整します。

押さえて締める

シートベルトの緩みをなくすように、チャイルドシートを押さえながら締め直します。

幼児用/乳幼児兼用

前向きに取付けて使用

チェック　CHECK CHECK CHECK

引っ張っても3cm以上動かない

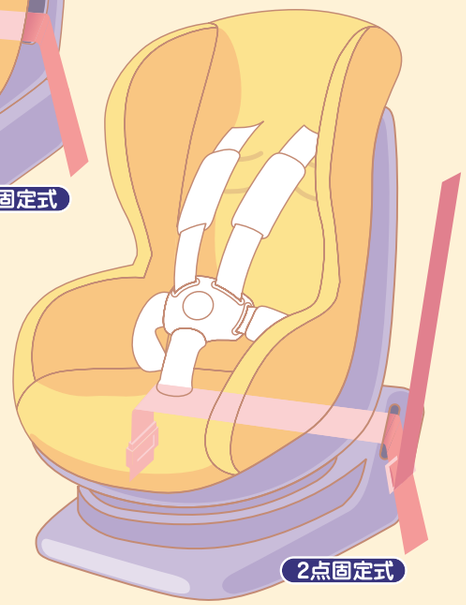
チャイルドシートの上端を10kgfの力で引っ張って、3cm以上動かなければ合格です。目安として、10kgfの力とはおよそ、女性が片腕でゆっくりと、力いっぱいに手前に引き寄せる力です。

台座を前後左右にゆすってぐらつかない

チャイルドシートの台座を持って前後や左右にゆすった時、ぐらぐらしないことを確かめます。ゆする時は、写真のように台座のバックルに近い位置を持つようにします。

体重をかけてもシートベルトが緩まない

チャイルドシートに大人が体重をかけた時、車のシートベルトが緩まないことを確認します。



ポイント　POINT POINT POINT POINT POINT

固定金具・内蔵クリップを正しく使う

写真の固定金具は、チャイルドシートの台座の角に当たっています。もう少し下方にずらして使用しましょう。また、内蔵クリップ型の場合は、車のシートベルトをしっかりと引き締めながら固定します。

リクライニングを調整する

シートの奥深くにチャイルドシートを置いた時、チャイルドシートの背面がシートの背から離れていると安定しません。車のシートがリクライニングできるようであれば、背を起こしてチャイルドシートにくっつけます。それでも隙間がある場合、チャイルドシートのリクライニング機能を使って調整します。

体重をかけながら締め付ける

チャイルドシートは、車のシートに沈み込ませて取付けるのが基本です。しっかりと体重をかけ、車のシートが沈み込んだ状態のまま固定します。

取付けられない!!

バックルが台座に当たってしまう場合

車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートの台座に当たる場合、きつく締めることができません。

乳幼児兼用タイプを乳児用として使うなら

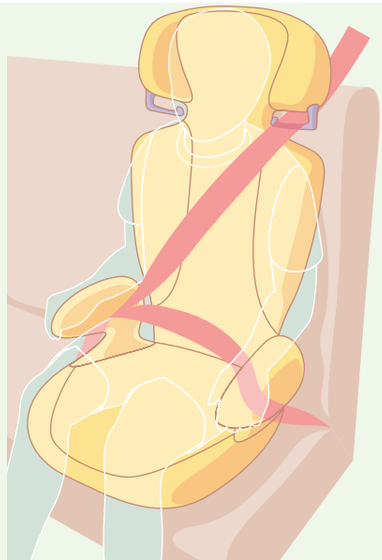
兼用タイプのチャイルドシートは、乳児用として後ろ向きや横向きベッドで用いることができます。兼用タイプを後ろ向きで使用する場合では、まず幼児用の「チェック」で取付け状態を確認します。そうしてから、背もたれの部分が45°になっていることを確認します。

学童用

子どもの体格が幼児用に合わなくなったら、学童用チャイルドシートを使用しましょう。学童用チャイルドシートは、子どもの座高を上げて姿勢を安定させ、車のシートベルトが首や腹部にかからないようにします。シートベルトは腰骨や鎖骨にかかるようにしなければなりません。

使用する時は、チャイルドシートを座席の奥深くに正しく置いて子どもを座らせ、シートベルトを決められた位置に通すようにしましょう。

また、学童用チャイルドシートは、子どもが座っていない時は固定されていない状態になっています。急ブレーキなどでも飛んでしまう可能性があるので、注意が必要です。



取付けにクルマのベルトを使わない ISOFIXタイプ

最近は、車のシートベルトを使わずに簡単・確実に取付けられるチャイルドシートも普及してきました。これはISOFIXタイプと呼ばれるチャイルドシートで、車の後席に専用金具があれば、チャイルドシートの金具をそこに押し込んで取付けることができるものです。
ただし、その車に対応するISOFIXタイプのチャイルドシートでなければならないので、購入した自動車販売店に問い合わせてみましょう。